令和５年度　地域医療構想における具体的対応方針

１．基本情報

病院名：土庫病院

医療圏：中和

２．地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

（１）地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

地域に根ざした急性期病院としての機能と、総合診療医・家庭医をはじめ、地域医療をになう医師養成機能を発揮します。
急性期機能としては救急医療、消化管を中心とした内科・外科・内視鏡科医療や、在宅支援病院として地域の急病救急を受け入れる機能、慢性期機能としては呼吸器、循環器、糖尿病などの慢性疾患を軸に幅広い患者を受け入れます。
当院では入退院調整機能を強化し、入院から退院、更に退院後まで患者が地域で住み続けられることを支援する地域包括ケアを支える病院をめざします。
救急医療については、中和地域での６０歳以上の高齢者の救急ニーズの増加に備え、高齢者や地域の在宅患者の急病、救急の受入や、これまでの救急機能として葛城輪番、小児輪番、急性腹症ネットワークなどについて強化していきます。
在宅療養支援病院として、地域の開業医や高次医療機関との連携を強化し、当会のみならず地域の在宅患者の急病救急を受け入れます。
コロナ禍以降、検診受診率が低下しており、悪性疾患の重症化が問題となっています。また医療にかかる機会をさまざまな理由で失っている地域住民に対して健康維持、疾病の早期発見を目的として健診活動を強化します。
当院の大腸肛門科は大腸肛門病疾患の早期発見、早期治療に貢献してきました。さらにＩＢＤなどの難病については、奈良県下でも大きな役割を果たしています。この分野において専門性を発揮できるよう、病診連携を強め紹介率を高め、地域の患者さまにこの分野での高度専門医療を提供します。
小児科のベッドを確保し、数少ない入院が可能な小児科としての役割を発揮します。また当会には病児保育所もあり、小児科を中心として子育て支援を行います。
初期研修医療機関として、初期研修から専門研修を通じて、専門分野だけでなく幅広い知識と臨床対応能力をもつ医師、医療のみならず保健や介護・福祉の分野にも習熟した医師の養成を行っていきます。
当院ではこの間フルマッチが続いており、引き続き初期研修医に選ばれる研修や、奈良県内で後期研修や専門医として働き続けたいと思えるような研修をめざします。
葛城地区の医療機関とはお互いの強みを活かしながら病病連携を強めます。地域医療を病院群全体で支えるため、協力協同して医療供給体制の構築をすすめます。
生活困窮者の医療を保障するため、無料低額診療を推進します。県下の無料低額診療事業を実施している医療機関との連携をめざします。セーフティーネットを強化して医療を受ける権利を保障し、手遅れ事例を減らします。
地域の医療・介護施設、生活支援団体、行政とも連携し「安心して住みつづけられるまちづくり」に貢献できる医療機関として役割を果たしていきます。

（2）自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

※地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり明らかになるようご説明ください。

当院の強みとしては、高齢者救急や慢性疾患を中心とした総合診療、大腸肛門疾患を中心とした消化器外科部門、子育て支援まで視野に入れた小児医療、訪問看護、在宅診療です。
これらについては、自院での患者受け入れの強化を図ります。
近隣の医療機関には大和高田市立病院、吉本整形外科病院、中井記念病院、御所済生会病院、香芝旭ヶ丘病院、香芝生喜病院があり、それぞれの特徴のある分野について連携しています。
救急医療については、外来の体制を今後変更し、幅広く在宅、高齢者施設、障がい者施設の高齢者、障がい者をはじめとする救急・急病の対応を強化します。また葛城輪番の参画病院とも連携をとりながら、地域の救急ニーズに応えます。
慢性疾患については今後近接診療所などへ管理を移し、当院では救急や急病の患者様の受入、治療を行ったあと近接診療所や地域の開業医さまへつなぐことができるよう病診連携を強化して対応します。
消化器外科部門では地域の開業医さまなどからの紹介患者さんを幅広く受け入れ、必要な処置を　おこなったあとは病診連携で開業医さまへ今後の管理を委託します。
小児医療については当院での入院治療を行いますが、場合によって対応できない疾患については、病病連携で高次医療機関などにつなげます。
訪問看護や在宅診療分野については、当院が在宅療養支援病院としての機能を発揮し、地域の患者様の受入を行います。

（3）（2）を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

※複数病院間の連携協定など具体的な取組（予定も含む）があれば、相手方の病院名やその取組の内容をできるかぎり明らかになるようにご説明ください。

・地域の開業医さまと病診連携を行い、急病救急患者の受け入れを行います。
・大腸肛門疾患分野では地域の開業医さまからの紹介の患者さまの受入を強化します。
・葛城地区の病院群（大和高田市立病院、中井記念病院、御所済生会病院、吉本整形外科病院、　香芝旭ヶ丘病院、香芝生喜病院）と葛城輪番をはじめさまざまなチャンネルで各施設の強みを活かし連携を深めます。
・中南和地区や隣接する西和、東和地区の高次医療機関と病病連携を深め、患者さまの受入を積極的に進めます。
・整形外科は吉本整形外科・御所済生会病院・大和高田市立病院
・泌尿器科は大和高田市立病院
・外科領域でも、乳腺・産科は大和高田市立病院
・肝・胆・膵、小児は奈良医大・大和高田市立病院
・急性期治療後は、回復期・慢性期医療を担う医療機関との連携。
・介護施設・近隣の在宅施設と連携を強化し、入所者急変時の受け入れなど、
在宅医療のバックアップ機能の役割を果たします。

３．地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※「（２）地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について」を踏まえた具体的な計画について記載してください
※「（３）」では選択肢によって条件設定を行い、回答内容によりそれ以降の問いに対し、システム上回答不要としている部分があります。この条件設定に不都合がある場合（回答することが適しているが選択できない場合など）は「４．その他」へ回答を打ち込んでください。

（１）機能毎の病床数のあり方等について

※H28年度の列は、別紙１－２「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。
※R5年度、R7年度（2025年度）の列は、今年度の病床機能報告及び別紙様式「急性期機能の細分化の報告」の数値を記入してください。
※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。
※最大使用病床数は１年間（R4.4.1～R5.3.31）に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

（床）

			H28年度	R5年度				
			（a）許可病床数	許可病床数	最大使用病床数		（b）将来 R7年度	（b-a）H28年度からの増減
一般病床・療養病床	高度急性期							
	急性期	重症	151	103	103		103	−48
		軽症		48	48			
	回復期		48	48	48		96	48
	慢性期							
	休棟中（今後再開する予定）					→		
	休棟中（今後廃止する予定）							
	合計		199	199	199		199	
精神病床								
結核病床								
感染症病床								
介護医療院								

（２）領域ごとの医療機能の方向性について

※以下[1]～[16]の領域の今後の方向性（今後の対応や取組方針、他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等）について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

はい

[1-2]手術の実施

消化器

[1-3]化学療法の実施

対応している

[1-4]放射線治療の実施

対応していない

[1-5]拠点病院等の指定

[1-6]今後の方向性

当院は１９８８年に大腸肛門病疾患の早期発見、治療を目的として大腸肛門病センター開設し、地域住民の大腸肛門病疾患の早期発見、診断、治療を行っております。当院を受診された患者については定期的なフォローアップシステムで患者のフォローを行っております。その強みをさらに活かし、地域連携を通じて患者さまを受け入れ、当院での治療ののち、かかりつけ医によるフォローアップをお願いしていくことで、当院の強みをより活かしていきたいと考えております。またがん治療においては化学療法も積極的に取り入れており、働きながら治療をつづけられる治療体制を構築しております。さらに内科や地域の開業医さまと連携し、在宅でもがん治療が行える体制を構築していきたいと考えております。またがん患者さまの疼痛、終末期において、入院のみならず在宅をはじめ住み慣れた生活の場での緩和ケアが提供できるようにします。
また先端医療としてロボット手術の導入を今後検討します。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

[2-8]大動脈瘤手術の実施

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

対応していない

[2-10]今後の方向性

心血管疾患については外科的なものや侵襲的検査などについては対応しておりませんが、高齢者の心不全について内科的な治療を行っております。また当院では冠動脈ＣＴの実施により心血管疾患の診断が可能であり、外科的処置が必要な患者さまについては、香芝旭ケ丘病院・髙井病院と連携しており専門病院への紹介が可能です。

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

はい

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

対応していない

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

対応していない

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

対応していない

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

対応していない

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

対応していない

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

対応していない

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

対応している

[3-9]奈良県脳卒中地域連携パスへの参加

参加していない

[3-10]今後の方向性

当院では脳卒中における初期診断は行っていますが、急性期治療には対応しておりません。
しかし、当院は脳血管疾患等リハビリテーション料1を届出しており、急性期対応後の患者様の紹介を受け入れ、早期にリハビリを実施しております。
2022年10月にＭＲＩの導入を行い、脳梗塞などの脳血管障害の診断が容易に行える環境が整っており、治療困難な場合は、高次医療機関へ行く役割を担っています。また高次医療機関と連携し治療後の患者のリハビリ目的の転院、退院支援を多職種協働で行っております。当院の地域・在宅につなげる包括的なリハビリテーション活かし、脳卒中遺症後の在宅生活の訓練後、診療所からの在宅訪問や介護保険を活用し、在宅生活のフォローなどを継ぎ目なく行っています。

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

はい

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

はい

[4-3]大腿骨骨折への対応

対応していない

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加している

[4-6]今後の方向性

当院には救急科専門医が在籍しており、救急受け入れはもとより専攻医の受入を行っており、地域の救急医療の発展の一翼を担っております。
中和地域においては、2025年までに高齢者の救急需要が増加します。当院の救急患者さまについても80歳以上の高齢者の救急搬送割合が増加しており、今後の需要拡大に備えます。
まず社会医療法人の要件について、救急医療での要件として、地域の救急需要に応えます。また土庫病院の救急受入を拡大するため、当院内科救急科の慢性患者さまについては近接診療所に移し、急性期救急医療の受入を強化します。また地域の開業医さまが管理しておられる在宅患者さまや施設入所さまの急病に迅速に対応できるよう、病診連携を強化して救急受け入れを強めます。
また葛城輪番や小児輪番についてもこれまでと同様、地域の救急を守るために引き続き強化して取り組みます。
大腿骨骨折については、吉本整形外科病院・大和高田市立病院・御所済生会病院と連携し、患者さまを紹介します。

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

はい

[5-2]心血管疾患等への早期リハビリ（再掲）

対応していない

[5-3]脳血管疾患等への早期リハビリ（再掲）

対応している

[5-4]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-5]訪問リハビリの実施

対応している

[5-6]通所リハビリの実施

対応していない

[5-7]今後の方向性

当院には救急科専門医が在籍しており、救急受け入れはもとより専攻医の受入を行っており、地域の救急医療の発展の一翼を担っております。
中和地域においては、2025年までに高齢者の救急需要が増加します。当院の救急患者さまについても80歳以上の高齢者の救急搬送割合が増加しており、今後の需要拡大に備えます。
まず社会医療法人の要件について、救急医療での要件として、地域の救急需要に応えます。また土庫病院の救急受入を拡大するため、当院内科救急科の慢性患者さまについては近接診療所に移し、急性期救急医療の受入を強化します。また地域の開業医さまが管理しておられる在宅患者さまや施設入所さまの急病に迅速に対応できるよう、病診連携を強化して救急受け入れを強めます。
また葛城輪番や小児輪番についてもこれまでと同様、地域の救急を守るために引き続き強化して取り組みます。
大腿骨骨折については、吉本整形外科病院・大和高田市立病院・御所済生会病院と連携し、患者さまを紹介します。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

はい

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

有り

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]訪問リハビリの実施（再掲）

対応している

[6-5]今後の方向性

当院は在宅医療について在宅療養支援病院の認可を受けております。当院でも在宅医療を行っておりますが（施設入居者、障がい者施設）。今後は近接診療所と外来の機能を調整し、当院の内科救急科と連携しながら在宅の急病受入を重視し在宅医療に取り組んでいきたいと考えております。当院の在宅患者さまのみならず、地域の開業医さまと連携し、開業医さまが管理されている在宅患者様の急病に迅速に対応できるシステムの構築を検討しています。在宅療養後方支援病院と同等の機能をもつ病院として在宅医療に取り組みます。
またこれまでのとりくみとして地域の開業医や訪問看護ステーションと連携し、がん・非がん患者さまの看取り支援、訪問リハビリ、医療依存度の高い患者さまのレスパイト入院などで在宅療養の支援を行っております。

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

いいえ

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

はい（施設名称をご記入ください）（訪問看護ステーション　そよかぜ　・訪問看護ステーション　はるかぜ）

[7-3]今後の方向性

同法人に２訪問看護ステーションがあります。これらの訪看と連携し、急病、急変時においてはシームレスに外来診療、入院につなげています。また地域の訪問看護ステーションとも連携し、急病救急対応を行っております。
また近接するこども診療所と連携し、小児在宅医療についても検討しています。

[8] ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」(「適切な看取りに対する指針」)について

定めている

[8-1]今後の方向性

当院は併設の老人保健施設や在宅療養支援を行う法人内の関連診療所の後方支援病院、中和地区の在宅療養支援病院、地域高齢者の急病受け入れ、障害者施設の嘱託医などの役割を担っています。
2018年6月には「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関する指針」を定め、訪問診療、外来、入院時に指針に基づいた患者家族への説明と話し合いをすすめ、治療方針に反映させています。今後さらに意思決定プロセスが分かりやすくなるよう整備を進めていく予定です。
また患者の意志決定を支援するとりくみとして地域での啓蒙活動や職員研修をすすめます。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

はい

[9-2]小児入院医療管理料の算定

していない

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

していない

[9-4]小児科病院二次輪番体制への参加（再掲）

参加している

[9-5]今後の方向性

近接診療所として小児科の診療所（土庫こども診療所）を併設し入院患者を受け入れています。コロナの小児の入院施設としても対応してきました。
以前から個室感染隔離室を常設し、様々な感染症に対応してきました。またコロナ禍には、早い段階からコロナ感染症検査においても積極的に対応実施し、地域の求めるニーズに役割を果たしてきました。
小児救急は担う病院も少なく、今後も小児輪番に積極的に参加していきます。また実施体制が整えば、小児の外来リハを積極的にすすめていく予定です。
また病児保育所を併設しており、働く世代の子育てを応援しています。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[10-2]分娩の取扱い

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

[10-4]今後の方向性

この領域においては対応しておりません。また今後対応の予定はありません。

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

はい

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

いいえ

[11-3]ＤＭＡＴ指定病院の指定を受けているか？

いいえ

[11-4]ＥＭＩＳ（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]今後の方向性

大和高田市においては、災害拠点病院の大和高田市立病院と連携し、災害時の入院患者を収容する施設となっています。
自家発のほか、ガスコージェネレーションシステムを装備しており、災害時に停電しない、災害に強い施設となっています。これを活かし災害時には阪神大震災や東日本大震災の災害支援の経験を活かし積極的に　災害医療の一翼を担います。
年１回の大規模災害訓練を実施するとともに、2015年2月、2022年11月に奈良県で開催された近畿地方DMATブロック訓練にDMAT隊受け入れ病院として参加しています。自治体・消防・医療機関、DMAT隊等、各方面との連携を重視して取り組みをすすめています。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

[12-3]今後の方向性

当該領域においては対応しておりません。
対応する予定は今後ありません。
当院は中和地域にあるため、南和地域などからの患者さんの紹介があります。南和医療センターなどと連携し、患者の紹介があれば積極的に対応いたします。

[13]新興感染症等の感染拡大時における医療

[13-1]診療・検査医療機関の認定を受けているか？

はい

[13-2]新型コロナウイルス感染症の陽性患者入院受入を行っているか？

ただし自院に他疾患等で入院していた院していた患者は除く。

はい

[13-3]「感染症患者の受入を想定した研修や訓練」を、年1回以上自院で実施しているか？

はい

[13-4]下記訓練に年1回以上参加しているか？

行政機関（保健所等）や他医療機関等が主催する「感染症患者の受入を想定した研修や訓練

はい

[13-5]下記訓練を、自院で年1回以上実施しているか？

新興感染症の発生に備えた病床確保に当たってのシフトや応援に係る訓練・点検、院外から移送された患者の受入の流れを考慮した訓練

いいえ

[13-6]今後の方向性

2020年から発生したコロナ感染症について、2020年5月から疑似症病床を持ち、また２０２１年5月からは重点医療機関としてコロナ患者の受入を積極的に行い対応してきました。
当院にはＩＣＤが勤務しています。また感染対応の専任の看護師を医療安全感染管理部に配置しており、今後ＩＣＮの養成を行っています。
また当院ではコロナ感染症が蔓延した当初から専門の部署を立ち上げコロナ対応をおこなっています。陰圧室などの設備がなかったため、施設改修を行って対応しています。
今後起こりえる新興感染症については、感染症専用の陰圧室がないことや、病棟のフロア構成などの問題で新興感染症をいち早く担う医療機関にはなりにくいですが、感染対策の方策が一定示されればＩＣＤや感染専任看護師が対応できるため当院での患者受入は可能であると考えています。またコロナ禍のように受入医療機関が少なく病床がひっ迫する事態となれば、地域のニーズにこたえる対応をおこなっていきます。

[14]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[14-1]当該領域について対応しているか？

はい

[14-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

はい

[14-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

いいえ

[14-4]臨床研修協力施設であるか？

いいえ

[14-5]専門研修の基幹施設であるか？

はい

[14-6]専門研修の連携施設であるか？

はい

[14-7]今後の方向性

医師養成は注力している分野のひとつです。
当院は基幹型臨床研修病院であり、2022年度は5名、2023年度は5名、2024年度は定数６名と連続フルマッチをしています。質の面でも卒後臨床研修評価機構（JCEP）による第三者評価を受審し認定を受けています。引き続き臨床研修協力病院・施設と連携した研修プログラムを充実させ、人権を尊重し、安全・安心の医療・介護を担う医師養成を行います。
また新専門医制度では総合診療と内科で基幹型プログラムを保有しています。総合診療は病院と法人内診療所で2つのプログラムがあります。複数の専攻医が研修中です。
総合診療・内科・外科・救急科は連携施設でもあり各科の専攻医が複数名研修中です。
今後も地域中小病院の特色を生かし、さらなる研修プログラムの充実のため連携施設の増加を行っていきます。

[15]医師の働き方改革

[15-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得予定

[15-2]今後の方向性

当院の医師の時間外労働はA水準です。
宿日直許可申請については現在、労働基準監督署と相談を進めており、まもなく許可が下りる見込みです。医師の健康を第一に考えた働き方改革を目指し、医師の健康を守ると同時にと地域医療・受療権を守る取り組みとして整備を進めています。
現在の医療活動を継続するためには数千万円以上の費用増が見込まれ、経営的側面においては非常に厳しい状況が見込まれます。

[16]看護職員の研修機能

[16-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ある

[16-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

[16-3]今後の方向性

今年度、感染管理認定看護師研修を1名受講しておりその特定研修については、自院で研修できるよう準備しています。今後については、今回受け入れ後に検討していく予定です。

４．その他